

クマ出没対策について

四電 英夫



知を行なっている。

◎冬場の交通安全対策について

〔質問〕今年の秋はこれまでにない頻度でクマが出没している。柿の実等の被害に加え人への危害も報道されている。クマが民家に近づかないようにするため対策を伺う。

〔答弁〕〔市民経済部長〕

収穫しない果実は早めに処分する。電気柵などを設置してクマを寄せつけない。本市としては、国や県から発出される情報を注視し、被害防除対策として電気柵の設置支援、廃棄野菜生ゴミの適正処理、有害固体の捕獲、放任果樹の除去、山林に接する耕作地の除草の周

〔質問〕国道113号福岡蔵本地内の改良工事が終わり、12年の歳月と55億2千万円の予算を投じて完成した道路は急カーブがなくなり道幅も広く快適な道路となった。道路が良くなればスピードも出がちななる。事故防止についてどのような対策を講じるか伺う。

〔答弁〕〔危機管理課長〕白石市交通安全新聞の中に冬季間の運転時のポイントを載せて啓発を行なった。また交通指導隊により、毎月運転者や歩行者に交通安全を呼び掛けている。

〔質問〕交通安全協会との連携について伺う。

〔答弁〕〔危機管理課長〕

白石地区交通安全協会や他の交通安全協会関係団体と連携して交通安全の啓発に努めて行く。

◎冬季間の防火活動について

〔質問〕乾燥期に入り全国で火災が発生している報道があるが、市民に対してどのような防火の呼びかけをするのか伺う。

〔答弁〕〔危機管理課長〕

秋の火災予防に合わせ、消防団には各地区の火災予防警戒をしてもらい、婦人防火クラブには住宅用火災報知機の設定呼びかけ等をしてもらっている。

〔質問〕消防団と婦人防火クラブとの連携について伺う。

〔答弁〕〔危機管理課長〕

火災予防を担う消防団と婦人防火クラブとの連携は大変重要であり、今後連携を図っていく。

二次元コードから各議員の質問動画へアクセスできます。

学校再編計画と教育環境及び教育を受ける権利について

高子 秀明



〔質問〕プロジェクトチームの基本計画で、想定する小中一貫義務教育学校の児童・生徒数、特別支援を含む学級数、土地取得予定地と費用、建設費用、補助金交付金等歳入について伺う。

〔答弁〕〔教育部長〕

プロジェクトチームの基本計画は無いが、令和5年7月に設置された「白石市学校教育・保育審議会」からの答申を基に、教育委員会として今年度中に「小中学校の在り方に関する基本方針案」を示す予定である。児童・生徒数は少子化が想定以上のスピードで進行している状況で、およそ10年後は現在の5割程度と見込まれる。学校の標準規模は、学校教育法施行規則に規定されており、これを踏まえ特別支援学級についても、支援を必要とする児童生徒の教育的ニーズに対応した必要な学級数を設置したいと考えている。

〔質問〕各小・中学校の校舎および設備について、修繕要望数と未対応件数およびその対応手順等を伺う。

〔答弁〕〔学校管理課長〕

修繕要望数は令和5年度には167件、令和6年度は163件の修繕を行なっている。修繕要望は学校管理課で把握し、施設担当が現場確認を行い、当初予算編成時には副市長が現場を確認の上、安全性・緊急性を考慮し、補正予算または当初予算に計

上している。今後も安全性や緊急性を十分考慮し、児童・生徒の安全安心を第一に取り組んでいく。

〔質問〕児童・生徒と教職員と保護者のみならず、広く市民に透明性ある合意形成を図る必要があるが、少子化が急激に進行している状況や安全で快適な衛生環境下での教育を受ける権利を踏まえた学校再編の市長の見解を伺う。

〔答弁〕〔市長〕

学校再編は児童・生徒、保護者のみならず、地域の方々と合意形成を図ることは極めて重要である。本市としては、教育基本法第4条をはじめとする関連法令および「未来を拓く学校教育充実化条例」に基づき、子どもたちに最善の学びの環境を提供することを最優先に考え、持続可能な学校の在り方を丁寧かつ着実に検討し、よりよい教育環境の実現に全力で取り組んでいく。